

【提出意見】

北川 智子（歴史学者）

AI についての議論がありましたが、とても難しい記述だと思い、少し考えておりました。

AI はこれからも発達をしていき、デジタル世代の次の、AI 世代が社会を学ぶことになります。AI と「ともに生きる」世代への教育は、その時々で AI と「向き合う」という構図を基本にしてはどうでしょうか。あるいは、AI と Humanity を組み合わせ「バランスよく使用する」という体系を念頭に置いたらどうでしょうか。従来の「調べる、まとめる、振り返る」というプロセスはフィットするので AI に関する記述の流れはいいと思うのですが、AI の使用方法や目的などに関しては、たとえ専門家に聞いても今後のことは分からない話なので、この段階で細かく書けないというのが実情で、それでいいのではと思います（限界なので）。

また、先生への負担について考える必要があるかなと思いました。今後、扱っていく情報量が多くなることは間違いないので、先生がチェックするような仕事方法だとかなりの負担になってしまいます。そこで、グループワーク（peer review 方式）の活用などもアイディアとして入れてあげると、全てを先生が面倒を見ずに済むのではないかと思います。指導に熱意が入るのは良いですが、文書全体を通して、オーバーワークにならないようにヒントを出すとか、加減してあげることも大事な気がしています。